

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム おおたに

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370500779		
法人名	社会福祉法人 大谷会		
事業所名	グループホーム おおたに		
所在地	〒025-0244 岩手県花巻市湯口字松原55番地23		
自己評価作成日	令和6年11月25日	評価結果市町村受理日	令和7年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhvou

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山や川、田畑に囲まれた自然あふれる、ゆったりとした環境にある。母体の特別養護老人ホームが隣接しており、24時間連絡が取れ日常的にバックアップ体制が取れている。職員の配置替えや利用者の入れ替えによる人的環境の変化があるが、利用者同士の交流や家族との交流を通し、利用者の出来る日常生活を通して施設に馴染んで頂き、その人らしく生活できるよう支援している。体操や散歩で体を動かし日中の活動を行う事で夜間の安眠を促している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年12月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、花巻南温泉郷の入口にあって、田畑に囲まれた自然環境豊かな場所に立地している。平屋で奥行きのある建物に沿って桜の木が植えられ、春になると居室からお花見を楽しむことが出来る。桜の木の周辺にある花壇は地域ボランティアの協力で手入れがされ、利用者との交流の場にもなっている。事業所では「住み慣れた地域で、尊厳ある人生を、その人らしく、安心して暮らせる場所」を運営理念として掲げ、利用者一人一人が望む暮らしが出来るよう、利用者に寄り添った支援を行っている。また家族の協力を得て、運営推進会議への参加のほか、利用者が外出や外泊などの楽しみを増やし、利用者は心豊かな日々を送っている。隣接する母体の特別養護老人ホームは、日常的な看護師の協力や避難時の応援、重度化した場合の入所先として連携しており、利用者家族に安心感をもたしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域で尊厳ある人生をその人らしく豊かに安心して暮らせる場所」を運営理念とし、ホールなど目につく所に張り出している。ケアプラン作成時にも、理念に沿って利用者の出来ることを考え、職員で共有し実践している。	令和3年に運営体制が変わったことを契機に、開設時当初に作られた運営理念の見直しを検討したが、現在に至っている。管理者と職員は、理念に基づき「家庭的な雰囲気」を大切にケアの実践に努めている。職員は、理念に基づいたケアが出来ているかを自問しながら支援に努めている。理念は誰もが目につきやすいよう事務室と玄関に掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域協力の防災訓練、花壇作りなどを通じて、交流を図っている。	町内会に加入し地域との関係を大切にしている。春の花壇整備には、地域ボランティア(花と緑の会)10名が花を植えに来て、利用者との交流を深めている。また、火災訓練でも、民生委員や区長を中心とした地域の方々の協力を得ている。現在はまだコロナ感染防止のため、建物内での交流は行っていないが、状況が良くなってきたら子供会等との交流を再開していきたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話及び入居申込みの来訪者の相談や認知症対応への家族やケアマネジャーの問い合わせに答えている。施設見学を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月ごとに会議を開催している。利用者の生活の状況の報告やヒヤリハット・事故報告などテーマを決めて意見や助言など頂き、職員へ周知している。	2カ月毎に開催し、今年の9月と11月は感染症の状況から書面開催となっている。委員は、民生委員、行政、地域包括支援センター、家族代表、利用者代表となっている。事業所から管理者の他、職員が書記として交代で参加している。会議では利用者の生活状況や行事、ヒヤリハットや事故の報告を行っている。委員の意見や助言などは職員間で共有している。会議の議事録は、玄関に置き、家族が来所時に閲覧出来るようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じて、取り組み内容を伝えたり、市の介護保険の動向や情報を知らせて頂いている。また、地域包括支援センター職員との連携協力を取っている。	運営推進会議に市の担当や地域包括支援センターの職員も参加しており、会議の他に様々な情報や助言、指導をメール等でいただいている。要介護認定申請や事故報告等があれば直接市に出向き、話をしやすい関係性を築いている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おおたに

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を通して、拘束を行わないケアに取り組んでいる。外に出たい利用者には見守りしながら付き添いをしている。	身体拘束についての指針を整備し、法人全体で取組みを進めている。年3回研修会を実施し、身体拘束をしないケアの実践について理解を深めている。スピーチロックについて頭では理解しているが、実際のケア場面ではもう少し適切な言葉遣いにした方がと反省することもあり、職員同士で注意し合っている。ふらつき転倒防止のため、2名が夜間のみコールマットを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアの中で虐待につながる事がないか注意し合い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	様々な回覧される資料を確認し、制度を学んでいただき、利用者や家族に必要時活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族に重要事項説明書を提示し、疑問点を聞き、その都度必要な説明を行っている。制度改正等による内容変更の都度、同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関口に意見箱を設置している。年に1回家族アンケートを記入していただいたり、面会時にも家族の意向を確認し、職員で話し合い支援に繋げている。	家族が事業所に来所することも多く、意見や要望等を伺えることもあり、年1回無記名で家族アンケートを実施しながら、話しやすい雰囲気づくりに努めている。利用者の様子は来所時に伝えたり、3カ月毎に発行の広報誌「共に」でお知らせしている。日々の様子の写真掲載は、家族から好評を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや記録等の時間に職員間で話し合いを持ち、改善案を考えサービスの向上につなげている。	職員間のコミュニケーションは良く取れており、管理者は日々の業務の中で職員の意見や要望を聞き、必要な事は毎月の職員会議で話し合い業務に活かしている。高額な備品購入など、事業所だけで解決できない事項は、管理者から法人本部に意見を伝え、より良い業務が出来るように取り組んでいる。	

事業所名 : グループホーム おおたに

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人に日々の業務に対して、意見や不安等を十分に聞き、話し合いながら、業務に取り組んでいる。又、精神的ストレスを溜めこまないよう職員間で相談し、良いチーム環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規職員には指導職員が共に勤務し指導している。外部研修に参加した場合は内部研修で伝達し、情報を共有し一人ひとりがスキルアップするように働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修会などを通して、他施設の良いところを知り、自施設のケアに反映させている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接で本人及び家族から困っている事や要望を聞き取ると共に、本人の声や表情、行動等から困っている事や不安な事をいち早く察知し、安心できるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込み時の家族からの相談内容を再度事前の面接で聞き取りし、本人の状況と家族の不安や要望を確認し、利用者の受け入れ態勢を整え、信頼作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅での様子を聞き、本人と家族の実情を把握し、必要に応じてすぐ対応できるように他の介護サービス等をお知らせしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設内で同じ時間を過ごしていく中で、出来る事を一緒にやって頂いたり、人生の先輩として尊敬を持ち、暮らしを共にしている。		

事業所名 : グループホーム おおたに

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に現在の様子を伝えたり、自宅での以前の様子や思い出を聞き、情報共有し支援に繋げている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	普段の会話に本人の家族の名前や地名を話題にしている。家族の協力で毎月通院したり、自宅への外出を勧めている。	家族や兄弟(姉妹)、近所の方の面会もあり、関係性の継続に繋げている。家族の協力を頂き、病院同行の後、馴染みの場所で食事をしたり、お寺や、お墓に連れて行ったり、外泊もしている。職員は、家族の協力を得ながら利用者の馴染みの人や場所との繋がりが途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングで利用者同士が馴染みになるように同じ席に座っていただいたり、コミュニケーションを取りやすい環境作りに努めている。一緒にレクリエーションをしたり、DVDの活用や歌を唄う等共通の活動を行い楽しんで頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に移った利用者の情報提供や行事の際の面会、グループホームでの生活の様子の伝達を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から希望を聞いたり、日常の会話や行動または表情から思いを汲み取り、対応を職員で話し合い、統一した支援に努めている。	利用者のほとんどが希望や意向を伝える事が出来る。むしろ遠慮があるのではないかとすることも考慮し、何でも話せる雰囲気づくりに努めている。職員ノートや看護ノートに記録して職員間で本人の希望や意向を共有し、対応について検討しながら本人本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の面会時に昔の事を尋ねたり、写真や馴染みの物を持ってきていただき自室に置いている。また、本人との会話から昔の事を聞きだし、好みの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の流れや変化を、ケース記録や申し送り等で把握し、職員間で共通の対応が出来るように心掛けている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おおたに

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の要望や生活の意向を聞き、職員で検討し、ケアプランを作成している。定期的にモニタリングを行い、次のプランに反映させている。	本人や家族の意見を聞き取りながら、日々の生活状況について日勤、夜勤の職員がモニタリングし、その結果を受けて介護支援専門員がアセスメントし、ケアプランを更新している。定期的見直しは概ね6ヵ月(4月、10月)であるが、入院などの状態変化があった場合には随時変更を行っている。ケアプランは家族に郵送し、家族来所持に確認を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、介護日誌、連絡ノート、医療ノート等で確認し、情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望により、外出を勧めている。物品購入の代行、通院の付き添いや送迎は、家族の状況に応じて支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の方々の協力による防災訓練や花壇整備を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれのかかりつけ医へ家族と通院の際、本人の様子を情報提供書として提出している。他科受診時も受診内容の伝達を行っている。	利用者全員が入居前のかかりつけ医を受診し、基本的に通院は家族対応となっている。受診時には2週間分のバイタルチェックや食事、水分摂取状況などの情報提供書を家族に渡し、かかりつけ医へ提供している。受診後は家族から医師の指示等を確認し、看護ノートに記載して職員間で共有している。緊急の場合や家族の都合がつかない場合などは、職員が通院介助を行っている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おおたに

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体の特養の医務室看護師に、緊急時は相談し助言いただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に入院先への情報提供、入院中の家族との連携による退院後の支援を行っている。必要に応じて入退院の送迎も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族に重度化後の対応について確認している。母体の特養への入居希望が多いので担当職員と連携を取り、情報提供している。終末期への対応についても、チームで支援できるように配慮している。	重度化した場合の対応について、入居時に家族と話し合っている。要介護3とされた場合には、特別養護老人ホーム等への入所も選択肢としてあることをお知らせしている。法人が運営する特養が隣接しており、本人、家族も重度化した場合の受け皿についてイメージしやすい環境となっている。看取りは5、6年前に経験があるが今は行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体特養の看護師による学習会で、知識、実践力を身に付け、職員間で様々な情報を共有し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練(火災、土砂災害等)を様々な想定のもとで実施している。訓練内容によって地域の消防団や母体特養の職員の協力を得ている。毎月防火安全対策DVDを観て防災意識を持って頂いている。備蓄食品(3日分)は常に期限を確認し揃えている。	月1回防災の日を設定し、防災に関するDVD鑑賞を行い防災意識を高めている。4月には隣接している特養と合同で職員の消火訓練を行い、6月には事業所の火災訓練を日中想定で、11月には夜間想定で実施した。災害時には母体の特養と地域の志戸平自主防災会の協力も得られることになっている。災害備蓄として3日分の食料やライト、ヘルメット、防災グッズなども備えている。	災害対策については母体特養や地域の協力も得られる環境にありますが、夜間の火災発生など職員一人体制や暗闇など日中とは異なる状況下で、適切かつ迅速に避難行動を取るため、一層きめ細やかな訓練を実施することが望ましいと考えられます。地域協力者を含めた緊急連絡網の整備や夜間想定訓練を薄暮時に行なって課題を整理するなど、運営推進会議も活用しながら進められることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の先輩と意識し、尊敬の心を持って言葉遣いや接し方に配慮し、一人一人の目線に合わせて寄り添ってケアしている。認知症やコミュニケーションの研修を行い、プライバシー保護について確認している。	利用者尊重のためには言葉遣いが大切であることを常に意識しており、親しみやすい方言も織り交ぜながらも丁寧な言葉遣いが出来るよう気をつけている。よそよそしくならないよう、かつ馴れ合いにならないよう、個々を大切に温かな対応を心がけている。排泄介助は利用者の動きを見ながら、自尊心を傷つけないようにさりげなく誘導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で表情や行動等で本人の思いを汲み取り、本人が選べるように分かりやすい説明を働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のその日の体調や気分で、ソファや畳で過ごしていただいたり、自室で過ごす事を選んで頂くなど、本人のペースを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員が本人の希望を聴き理髪を行っている。また季節に合わせて本人の好みの服装を用意し選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	キッチン前に手作りの献立表を張り出し、読み上げています。本人の嗜好を確認したり、テーブル拭きなど本人が出来る事を行って頂いている。誕生日は本人の好きな献立を用意し楽しみをもって頂いている。	食事は三食とも職員の手作りで提供しており、食事担当が利用者の希望を取り入れながら作成した献立を、一週間毎にキッチン前に掲示してお知らせしている。嗜好を聞き取ったところ、肉が食べたいという希望が寄せられ取り入れるようになった。行事食には刺身やノンアルコールビールなども提供しお楽しみとなっている。利用者はテーブル拭きや下膳など出来ることを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の食べやすい食事形態や軽い食器を利用したり、水分摂取チェック表で摂取量を確認し、不足しないように水分摂取を勧めている。夏は特にこまめに水分補給を行っている。毎月体重測定を行い、カロリー摂取の多い人は、ご飯の量で調節している。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム おおたに

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	年1回の歯科検診の実施と、毎食後の歯磨きの徹底の為、見守りや声掛けし、自己で出来ない人は介助し、義歯洗浄、口腔内の確認を行っている。夜間は義歯洗浄剤を使用し清潔保持している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	水分、排泄チェック表にて個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。個々の排泄時の後始末の状態に合わせて本人の出来ない所を支援している。尿意の訴えない人は、本人の行動をみて誘導し排泄に繋げている。	水分、排泄チェック表をもとに、一人一人に併せて適時の声掛け誘導を行っている。日中は自分で尿意を覚えてトイレに行く方も多く、失敗も少ない。食事後や、夜間のみ声掛け誘導を行っている。布パンツ使用者が2名、7名がリハビリパンツを使用しているが、汚すことは少なく排泄の自立度は高い。夜間のみ転倒防止のためのコールマットを2名が使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のミーティングや排便チェック表で排泄状況の確認を行い、便秘の人は朝に水や乳酸菌飲料等で排便を促したり、医師と相談して下剤の調整、体操や散歩を取り入れ便秘予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の認知症状やペースに合わせて入浴順番を調整し、ゆっくり入浴していただくよう支援している。安全を考え職員二人体制で入浴介助している。プライバシー保護の為、脱衣室のカーテン使用している。本人の好みの湯加減に調整し、入浴後疲れやすい人は自室で休んで頂くよう勧めている。	週3回の入浴を基本としているが、利用者の希望に添いながら入浴している。入浴や異性介助を嫌がる方はおらず、楽しみにしている方が多い。職員は利用者と一緒に着替えを用意したり洗体するなど、利用者の出来ないところを支援している。入浴は職員とゆっくり会話する時間にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事後、自室やソファで休んでいただく事が習慣になっている。時には本人の希望により和室も利用している。日中の体操や日光浴等で夜間の安眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1日3回分個々に薬箱を分け、配薬準備は職員2人で確認、投与者は服薬時再確認して誤薬防止に努めている。新規の薬や内容変更時には医療ノートに記入し職員全員で把握している。処方箋は個人毎に管理し他科通院時に活用している。服薬時、個人に合わせてゼリーを使用している。呑み込み確認している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おおたに

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操や日光浴、季節の歌を唄いレクリエーション等で楽しんだり、DVDで好きな歌手のショーを観て頂いている。また、洗濯たたみやテーブル拭き等の仕事で張り合いを持って頂いている。コーヒー等の嗜好品やお菓子も家族に用意して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じて頂ける様バスハイクで出かけたり、外を散歩したり、また家族の協力で、通院時などを利用し、本人の希望の場所へ行っていただいている。	コロナ禍以前のように積極的な外出は難しいが、お花見や紅葉見物など季節のバスハイクを再開して楽しんでいる。家族の協力により、通院を兼ねた外出や盆暮の外出、外泊などが積極的に行われており、利用者の気分転換となっている。日々の生活では、ホーム周辺の散歩やウッドデッキでの日向ぼっこなど、外気に触れる機会を作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持されている方はおりません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話を取り次いだり、電話を掛けたいと希望がある時は、本人(代り)から掛けている。手紙のやり取りも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、歩きやすい様に家具類を置いている。ウッドデッキに出て花壇の花を見て頂いたり、空気の入替えや風を通す事で季節を感じて頂いている。居間は季節に合わせて飾りつけを行っている。空気清浄器を使用し、室内は夏はクーラー、冬は暖房と加湿器で心地よい環境を調節している。	ホール兼食堂にはテーブルと椅子、ソファーや畳小上がりが配置され、天井の明り取り窓からの自然光で全体が明るく温かな雰囲気となっている。クリスマスの飾り付けなど季節に合わせた工夫がなされ、利用者は大型テレビを見たり、それぞれが好きな場所で思い思いにくつろぐことが出来る。廊下の壁には手作りの作品や行事の写真などが飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや座敷の上り口に腰掛けたり、居間の自分の座席等好きな所に座っていただけるようにしている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おおたに

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	家族の協力で本人の使い慣れた物やぬいぐるみ を置いたり、写真入りの誕生カードを飾ったり、部 屋の入り口にも本人や家族の意向で写真を飾っ て自室と認識していただくように工夫している。部 屋のカレンダーは家族に依頼した物を使用してい る。	ベッド、クローゼット、床頭台、洗面台が備えられ 2部屋にはトイレも設置されている。利用者は使 い慣れたテレビ、小タンス、時計、家族写真を持 ち込み、壁面には、誕生会で撮った写真やカレン ダーを飾り、家族の協力で自分の部屋作りを行 い、心地良く過ごせるよう工夫している。居室の 入口には、大きく名前の書いた物を掲示し、自室 が分かるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	自室の名札を大き目に作ったり、浴室の暖簾やト イレの位置が分かりやすい様に、大きな文字で 表示をしている。自室のベッドの位置を一人ひと りの状態に合わせ、本人が安全に移動しやすい 様に配置している。		